

<脳科学・心理学を効果的に活用し、右脳と左脳をつなぐソリューションメニュー>

博報堂、「ブレイン・ブリッジ・プログラム」を開発

第一弾として、「博報堂レスポンス・レイテンシー調査」の提供開始

博報堂では、脳科学・認知科学・心理学・社会学などの理論や仮説を活用し、右脳と左脳の双方を効果的にマーケティングに活用するための調査やワークショップサービスを行うソリューションメニュー「ブレイン・ブリッジ・プログラム」の開発を開始いたしました。

この度、その第一弾として、通常のアンケート調査では差異が出にくいイメージ評価を、心理学や脳科学の手法を用いて測定するパッケージ「博報堂レスポンス・レイテンシー調査」を開発し、提供を始めましたので、お知らせいたします。

昨今、様々な領域において、人間の“脳”についての関心が高まっています。ビジネスの領域においても新しい潮流として、左脳偏重型・論理中心型だった思考から、感覚的・直感的領域にも踏み込み、より“右脳的”思考回路を活性化させていこうという意識が芽生えています。博報堂は、クリエイティブとビジネスとの橋渡しを担う業界にあって、元来無意識的に右脳と左脳を柔軟に活用してまいりましたが、この度その知見を活かし、最新の脳科学・認知科学・心理学理論に則った新しいリサーチやワークショップのメニュー「ブレイン・ブリッジ・プログラム」の開発を開始することとなりました。

同プログラムの第一弾となる「博報堂レスポンス・レイテンシー調査」は、直観的な判断(右脳の反応)を、データとして数値化しよう(左脳で量る)というものです。一般的に、企業イメージや、製品デザインなどのイメージ評価を通常のアンケート調査で取得すると、「差が出ない」「選択理由は特に無い」という結果になることが多く、最終的な判断に困るケースがありました。これは、選択肢に対し、「これがいい」と直感的に決めているのか、あるいは「どれも大差ないが、あえていえばこれ」と悩みながら選んでいるのかといった、言葉にはできない”なんとなく”の評価を数値化するしくみがないためでした。

本調査では、「対象者が回答に要する反応時間を計測し、統計的に比較する」という心理学などで使われている“レスポンス・レイテンシー法(Response Latency)”の手法をアンケート調査に採用することで、対象者の潜在意識を量的に捉えることを可能にしました。具体的には、反応速度を計測できるソフトウェアの入ったパソコンを使用し、回答までの反応時間データを統計的に処理、分析を行います。その結果、ロゴや広告表現などが、生活者に「ピン！」とくる強いインパクトのあるものかどうかを数値的に明らかにします。

心理学では、“ある課題を提示されてから回答を選択するまでの速度”が、人々の確信度や納得感

を反映しているといった研究が既になされていますが、本プログラムは、これをマーケティングやブランディングといったビジネスの分野に応用したものです。この手法を用いることにより、製品デザインや企業ブランドのシンボルデザイン開発といった感覚的要素の評価を定量的に把握しながら、より効果的なブランド戦略の展開を実現しました。

本調査パッケージは、博報堂のブランド戦略に関する専門チーム『ブランドデザイン』が、研究開発局や、必要に応じて脳科学や心理学領域の専門機関との連携をとりながら提供します。実査オペレーションに関しては、レスポンス・レイテンシー調査の専用ソフトを有する株式会社インタースコープ社と業務委託契約を結んでおり、実施・運営の主要部分を同社に専任で委託します。

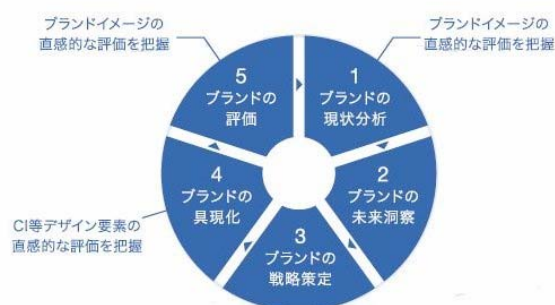
今後、博報堂「ブレイン・ブリッジ・プログラム」では、ZMET(Zaltman Metaphor Elicitation Technique)のような心理学にヒントを得る定性型仮説抽出の手法や、特殊なワークショップなどを通じた協創型プログラム等も含め、トータルなビジネスソリューションを開発し、順次クライアントにご提供していく予定です。

【「博報堂レスポンス・レイテンシー調査」について】

<メニュー例>

① ブランディング全体における活用例

ブランドの現状分析や、具現化、評価といったブランディング活動の様々な過程において活用することが可能。



② 単独での活用例

1. 企業イメージ確信度評価: 調査方法: 業界内の複数の

企業名を提示した上で、「親しみ」等自社がベンチマークしているイメージ項目を取得していく。企業だけではなくタレント等の感覚的なイメージ評価を伴うものであればすべて調査対象にすることが可能。

2. 新規企業ロゴデザイン評価: 調査方法: 新しくできたロゴデザインを提示した上で、ブランド設計時に設定したパーソナリティ(優雅な/活発な等)項目を取得していく。ロゴデザインだけではなく商品パッケージデザイン等にも応用が可能。

本件に関するお問い合わせ

博報堂	広報室	平澤・宮川	Tel: 03-5446-6161
	研究開発局	上嶋	Tel: 03-5446-6483
	リサーチビジネス推進部	中島	Tel: 03-5446-8645